

○文化七八年の以て石菖蒲の異品を玩ぶ事盛なりこれ嚮ふは格下倍  
 其後これを賞玩し所謂有根三種思竜美金虎類級脊長生及養老有極川山宗浦尚  
 聖山虎の巻狩雲霞夜天下天翁織通孫青葉廻入ると云々の名あり

○此時代名家△儒家山本北山龜岡鶴翁太田錦城朝川善庵△詩市河  
 寬齋大窪又民館柳湾業地立山△書輪池屋代為中村佛為波辺  
 東河恭皇池園克明松本竜津董堂敬義中川由美二井親孝  
 △狂哥生教蜀山人六樹園飯盛文舎蟹子丸三院雁法師千首樓堅丸純之亭  
 和格翠通舎英賀△俳諧林田房小知眞妻自然堂風朗不随舟成美八采  
 園菟和喜庵護物小兼庵碩嶺△画村野伊川院法平同晴川院  
 法印同素川朝信抱一君谷文晁門文一依田井谷英一陸長谷川雪且  
 鈴木南嶺大岳雲峰春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻室渡世  
 祥△金胎工戸流富久△刀鍛冶水心子正秀手柄山正重大慶並胤

△時繪師系更山羊遊坂内寛哉△浮世繪葛飾戴斗秋川豊國門冬  
 廣門國貞門國丸啼高北る香居清孝柳居辰女柳川室信泉守譯名  
目若  
 深川秋堤雪琳月磨菊川英山勝川春亭門春扇在久川美丸△花形と  
 いる俗根の子は初る○神乃藤敷坂田伴勢義徳久部日向初る  
 ○雨く屋取船年々小減り○南越人八十高富五郎不白の門小入て茶事を  
 よく以根岸○根岸田光古庵中長せ七有横世尺餘の菴極あり一株の名樹  
 あり文化の以迄の盛の以初下の發人々ふ集ひしが備むべし文政始の以格  
 果く○尾久村深山玄琳といふ人の園中小牡丹数株を載葉花の以  
 名物多かりし文化中より終り○文化の末大坂の竹本洋雲六更江  
 戸あり標座小松を登れをせり文政中道に戸小  
仍ししり○立川馬馬落唯一の庵すれを  
 起つ三笑亭可樂朝藤坊及樂出て味盛小初る○狂言格の模様遠明純

子の権掾又伊豫藤原といふ藤原なるる 伊豫藤原といふ藤原 ○文化の始より 比一方名ある

紙のり 紙のり 皇朝製海旅舎のり 今井某これを製し始り 今井某これを製し始り 今井某これを製し始り

○和製席紙始 檄州の人朝正我樂通林申川依右忠より 文化三百年 官許を治す 文政十三年

深川高橋小庵地を賣りて これを製せしめて世に 又板十有様五右の紙を製し と室東

○ギヤマンの器器物を製し始 其製器物 の比より 琉球扇

○居屋 居屋 の鉄炮小火を焚て 湯の中 金魚或ハ鯉の形を さ

○砂村王北稻荷社 社 之庭を 造り たり の形 して 美 造り す

系譜 系譜 なる事始

武江年表卷之七終

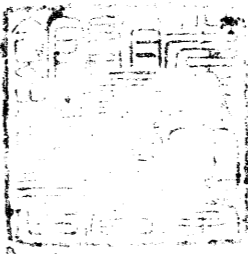
2/10  
7

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7

五江年表

八

210  
f



武江年表卷之八

文政元年戊寅 四月廿三日改元

米穀去年より豊饒ありて市中の若くは限小販一買へて貯蓄する者を見せらる

○二月八日画人谷文一卒 三十二号痴疾文惠の男 後茶屋主人小養以 ○三月の以市中一礎を售りて老嫗也

よとれ小觸まの夜を痛といひ歎言はる ○五月五日より十日迄葺島町都傳内

芝居ありて書相言自は ○五月廿八日浪谷屋玄坂田の中よりは邊の女童方

二寸半の金毛の亀をゆり ○六月十日武分判通用始る ○八月三田通寺町

大工某が改の小亀をゆり ○八月より十月まで回向院にて紀州道成寺親世

書閣焼 聖宝小徳娘の鬼女あり一時の 角といふのそとをまをり ○九月二日儒師毎琴及人卒 六十八才山本

○十月六日念佛の老徳本上人寂小石川一初院に葬 六十一歳と云ふ人の紀功目言那志 賀谷久志村の老田依某の男あり

四方の時隣家の小鬼俄あつて失りたりをを感へ念仏三昧にておそ多の時出立一燈を修へて 虎を化奪ひ近年の願徳かてまは状人の初るはあれが畧

よりいやはるる慶の上は釜の中枝をうりてまゝをあらはして 仍若徳本

○十月十七日西山大風夕八時半時色淡曇隨角の曼茶羅堂より出火花川

戸町一出世辺に僅小焼けて中の外は松浦彦中屋敷(飛本所刻)下おより

吉田町吉岡町二目四目の方(焼校)赤川様江の辺崩橋向六万坪の隙ふ

く焼く一口は信恩寺焼通り(飛)小砂村連焼亡以堅一里の除あり○日十九

日夜九時芝青松も焼亡○武江披沙成 写本太田蜀山著の志江戸砂子を解乃  
出小漏るるを身集くれりあり

○江戸名家墓一覽刊行 中古よりの江戸名家墓年没卒年月墓所を集む本々古丁目の  
書様伊世屋平次舟舟老樗評の編少く捜索を勤う情むて板本

今刊行 七十才不言な人と其の江戸を西洋画をうりしり  
交りりてその傍の紀行をわびに選録傳と区別せり

○十月廿日司馬江漢峻卒 文政二年己卯 四月間

○二月廿一日大雲○二月龜田勝高存高福泉岳も我々の墓辺(碑)を建て

○二月八日 初子 飯倉町六丁目(出火)二町余焼亡同夜八時半時新者町より

出火町跡左衛門町竹川町後座四丁目尾張町三十番堀中目より二丁目を

築地井伊屋は藩辺より焼く南小十町除東西四丁程焼亡翌日昼四時以迄

火之次消人足の喧嘩あり○二月画工北尾重政卒 八十才紅翠花藍と号し板屋  
住り傳世繪中の名手あり

○詩人栢本如亭卒 年七名祖  
稱門他 ○二月廿五日より飛戸天満宮法性坊社園焼

三月廿日鎌倉より神田住人者本何某(百)卒 女の子の紙一龍の字をまけ

本石町室町品川町小新町日幸橋一石橋の隙近敷焼○夏より痢病なる

死七のりた多 は此の病を備あつたりと云これを選りてとて撰典の戯画百鬼夜行の  
内ぬれ女の圖を写し社社標と号し流布せり或るものありあり

○二月十一日小田原より木倉の沙門 親正 湯島田満寺(名)加持を施し(光)即坐

言を授く(名)機軸集夥○田向院之房丹名寺親世者開帳○淡谷長

谷(名)おのれ明園幸遠了持規(名)焼○三月九日(名)淡草(名)幸(名)おのれ上総(名)原

妙光(名)祖師開帳○四月(名)心流(名)劍(名)師(名)橋(名)綱(名)跡(名)長(名)堀(名)宣(名)根(名)卒 七十才 小石川  
祥雲(名)由(名)蘇(名)沢

○五月抄小判を分判吹替七月も通用 ○夏浅草枳場小坂座吹所出する  
 ○夏日向院より淺瀬港迄舟が秋迄如未開帳 ○五月十日函人清水曲河原 寺三才名 見林連  
 ○事より深川永代より下り一田正七郎といふ若輩を人物多敷なる花の敷を借りしを  
 ○此秋浪花より下り一田正七郎といふ若輩を人物多敷なる花の敷を借りしを  
 浅草より突山よりと名物と云遠をのこり物敷 花の敷の加増をせざるわど細工 皆人こぼりわめりあり ○ま  
 為國橋西詰小籠細工より大なる酒類童子の形を借り見せ物とい 此を龜井町氣力と 師の細工より無量  
 の傍よりね松と稱して狸繫の敷遊業を仕りしが 向兩國ありもギヤマンの燈籠業  
 強賊の敷を弄帳の折るれとてぬん童子不改ん 船の造り物おも見せり是よりこぼり大造のこぼり物出 ○七月廿六日浮世伶  
 師橋川春英死 幸分才号九植秋本本教中若輩より 葬儀牛島七命より不憚あり六折園の冬 ○十二月九日夜所成た井上  
 廣は極後焼亡 ○十二月廿五日乾烈風未中刻三味線協依竹廣は極後より  
 出火即時小向後より新次廣市橋廣は極後南の形一橋の方焼出又も越

明神社園慶堂天文系の辺茅町追手外町屋も院多う於焼以翌日浅草  
 茅町より出火より辺二三町焼る ○月廿六日夜南於廣は極後焼失は外  
 小火所く小在 ○儒師井上四明卒 名藩孫仲一号佩強園今年九十七才才卒以 男を孫我といふ文政十年卒す  
 文政三年庚辰

正月元日梅花師奉相廿一得幸 百三才浅草常盤寺の敷位ありは竹 三園より院内の碑文ありをそり ○正月二十  
 四日廿五日龜戸天満宮参更の神り始る 去年出板と爲の程も太宰府の例ありて 此日を始む當社も今年よりそりむ  
 ○二月中旬深川沖一鯨二喉寄る六るす程の小魚之 ○三月十一日浅草  
 玉泉よりて松葉谷妙法も祖師罷帳 ○三月より深川降ふよりて舟延山  
 祖師開帳 ○三月廿二日庚辰年庚辰月庚辰日不吉なる於五時年徳神を急  
 る事あり 此日龜戸七年より四百廿三年 目ありて支干月一とりのり ○春より南谷村總野十二社権現  
 開帳 境内の池小籠船の造り物ありこの最目より降りれば或人の程あり 十二より池小籠船より一さうでんをさすふすの程あり ○六月朔日

回向院にて信長を祀る如來閣焼く  
土子と藤 中細流を隔りて  
茶屋料理屋を建てる  
○不忍池の南西の端に

ける天保中より争闘せらる  
○六月六日夕方雷雨して墜る  
○儒師市川寛存

卒 七十三才名世寧  
号西野 稱小太夫  
○八月十五日夜月の内小泉屋入る  
○八月十七日麻布一本松氷川町林

衆徒再身産子町より出  
○今年正月より秋より寺塔成り

○針金細工 細工人胡蝶  
○交葉細工 日本  
○虎遊び 虎の造物

○花巻細工 細工人胡蝶  
○茶番細工 細工人悦海川舟  
○素菜湯細工 細工人悦海川舟

○貝細工 人形細工末吉右舟  
○七小町人形 代目末舟月他  
○刺掛白澤の造物 三田高伴他

○江戸細工 西小出助六人形舟舟  
○割掛白澤の造物 三田高伴他  
○貝細工 日向院

○キヤマン系 改山景 大坂民樂部  
○文鏡上人院 日向院

○九月八日大風白雨被損湯修繕  
○九月廿八日夜光物形ふ  
○十一月廿四日佛人壺外卒

○十二月廿九日奉白銀所より  
出火幸町辺焼亡  
○儒師下田芳澤卒

文政四年辛巳

正月十七日夜お舟鎌倉八幡宮焼亡  
同日石所より幸町三丁目追焼る  
○日夜小石川

○二月月中旬より風邪流行  
○三月十五日より深川永代寺より下徳成田山不動尊を修繕

○四月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○八月十七日より権國寺如世若閑焼  
○四谷恭宗より武洲吉雄の権現閣焼

○真光稱爲明神國體 ○四月より日向院之甥州湯谷山太持親大日如來開帳

別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師淺芝 〇四月十三日画并盤

定家菅原洞舟卒 〇五月筋達寺の外牛込袋町代地友成并姉

心あ身肉より針を出し 〇五月筋達寺の外牛込袋町代地友成并姉

史記曰張嗣伯嘗開屋中呻吟甚嗣伯曰此病甚重乃視之見一老

媪稱體痛而足有黧黑無數嗣伯還煮斗餘湯送令服之服訖

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黧處皆拔出針長寸許以膏塗

瘡口三日而復云此名釘疽也

誓神錄云應士刺亮言其所知類角患瘡醫爲割之得一黑石碁子

巨斧擊之終不傷故復有足腫生瘡者因至親家爲刺犬所齧正

蓋其瘡其中爲得針百餘枚皆可用疾示愈

○六月長崎より百兒齊亞國の産路院二院を渡り閏八月九日より西島園廣小

後小出より看せ抱え 〇七月朔日より日向院より三立院性海寺本

除穢院如來開帳 ○七月廿六日書家重堂致義卒

○九月十二日塙檢校保巳二年 〇儒師原冠山卒

○十月廿日書家岸幸晚翠卒 名政和一号蝶遊園

文政五年壬午 正月国

正月元日雪尺小湯川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹有り已刻小

除穢院如來開帳 ○七月廿六日書家重堂致義卒

○九月十二日塙檢校保巳二年 〇儒師原冠山卒

○十月廿日書家岸幸晚翠卒 名政和一号蝶遊園

文政五年壬午 正月国

正月元日雪尺小湯川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹有り已刻小





